

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭62-176438

⑫ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)8月3日

A 61 B 10/00
17/281 0 3
3 1 0M-7033-4C
6761-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 生検用鉗子の改良

⑮ 特 願 昭61-128278

⑯ 出 願 昭61(1986)6月4日

優先権主張 ⑰ 1985年6月4日 ⑱ フランス(FR) ⑲ 8508387

⑳ 発 明 者	ジャン・マリー シン	フランス国	パリ	75116	アブニユー	ビクトル	ウゴ
	トゲン			45			
㉑ 発 明 者	ブルン	ゼタン	フランス国	パリ	75655	リュ	デュバンダン
㉒ 出 願 人	ジャン・マリー シン	フランス国	パリ	75116	アブニユー	ビクトル	ウゴ
	トゲン			45			
㉓ 出 願 人	ブルン	ゼタン	フランス国	パリ	75655	リュ	デュバンダン
㉔ 代 理 人	弁理士 関根 秀太						

明 細 書

1. 発明の名称

生検用鉗子の改良

2. 特許請求の範囲

- (1) 2個の腕部および部材用コントロール・ワイヤから成り、該コントロール・ワイヤはステンレススチール製らせん状ワイヤから成る可撓性シース内を挿通している生検用鉗子において、シースの少なくとも一端の外側表面が研磨されてなめらかであることを特徴とする生検用鉗子
- (2) 該シースの研磨部外側の直径が該シースの先端で減少していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の生検用鉗子
- (3) 該シースの外径寸法の減少がゆるやかであることを特徴とする特許請求の範囲第2項に記載の生検用鉗子
- (4) 該シースが少くとも一端の接合部材により組立てられる2個又はそれ以上の部材から成ること

とを特徴とする特許請求の範囲第2項又は第3項に記載の生検用鉗子

- (5) 該シースは組立後研磨することを特徴とする特許請求の範囲第4項に記載の生検用鉗子
- (6) 該コントロール・ワイヤは、屈曲潤滑タイプの材質膜から成ることを特徴とする特許請求の範囲第1項乃至第5項のいずれかに記載の生検用鉗子
- (7) 該屈曲潤滑タイプの材質がテフロンを含むことを特徴とする特許請求の範囲第5項に記載の生検用鉗子
- (8) 該コントロール・ワイヤがらせん状ワイヤの内層シース内に固定されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項乃至第7項のいずれかに記載の生検用鉗子
- (9) 該内層シースの巻き方向が外層シースの巻き方向とは逆であることを特徴とする特許請求の範囲第8項に記載の生検用鉗子

特開昭62-176438 (2)

3. 発明の詳細な説明

本発明は2個のスプーン又はあご部用のコントロール・ワイヤがステンレススチール製のらせん状ワイヤから成る可撓性シース内を挿通している生検用鉗子に関するものである。

公知の生検用鉗子では、シースはステンレススチール製らせん状ワイヤから成り、先端部での可撓性を改良する目的では、生検用鉗子によっては、ステンレススチール製部分内で細い直徑を有するシースを主シースに固着させている。この種の鉗子はんだ付けを2回行わねばならず、シースを正しく挿入するのに余分の手間がかかる。

公知の生検用鉗子の他の欠点は、エンドスコップ内のみぞに挿入したシースの外側表面が現状になっていて凹凸があることである。この種の表面はエンドスコップのみぞの中へシースを挿入する際障害物となり、バルブの早期摩耗を招き、先端部の間に屑が入りこむことになる。

上記の状態を避けるために、生検用鉗子の中にはシースに例えばテフロン等のフィルムを被覆さ

シースの可撓性を可変とすることも可能である。

先端に特に可撓性をもたせることが必要な場合には、本発明によれば直徑の異なる2個又はそれ以上のシースを組み立て、組立て前又は好ましくは組立て後に外側表面を研磨して、連結部材を最終処理段階で研磨することもできる。

研磨は費用がかからず、工業的精度で行うことができる。テフロン被覆の場合はこの限りではない。

更に本発明による鉗子の好ましい実施例では、コントロール・ワイヤはテフロンなどの自動潤滑材質のフィルムで被覆される。これにより滑りがよくなり、その結果生検用鉗子の取り扱いが容易となる。更に牽引が容易となり、生検用組立鉗子の寿命を延ばすことができる。

コントロール・ワイヤの滑り性をよくするため、例えば摩擦などにより該ワイヤをらせん状ワイヤ製シース内に、好ましくは巻きの方向を外側のシースの巻き方向とは逆にして固着することも有効である。

せることがある。こうすれば滑りは完全とまではいかなくとも改善されるが、一方ではみぞの中へシースを挿入する際に著しい変形が生じ、このためフィルムが破損しやすく、シースは表面がざらざらになり、屑がたまりやすくなる。

更にシース内のワイヤの滑りは通常良くない。

本発明はかかる公知の生検用鉗子の欠点を改善しようとするものである。この目的を達成するために、本発明による生検用鉗子の主たる特徴の一つによると、シースの少くとも一部を研磨した表面とした。円滑な表面は、外観が美しいばかりでなくシースをエンドスコップのみぞの中へ連続的な動きで挿入することを可能とし、ステンレススチール製のらせん状ワイヤの尖部の間に異物が蓄積するのを妨げることができる。

更に、シースの先端の直徑を小さくするように研磨することにより、挿入を妨げるような部分をふやさず、ハンダ付けを2度行うことなしに——これは破損につながる——先端部の可撓性を改良することができる。直徑を漸減することにより、

このワイヤに固着した内部ワイヤは長さ方向に固定され、弧状をなす部位での切除が容易となるが、単純なワイヤではこういう具合にはいかなかった。

4. 図面の簡単な説明

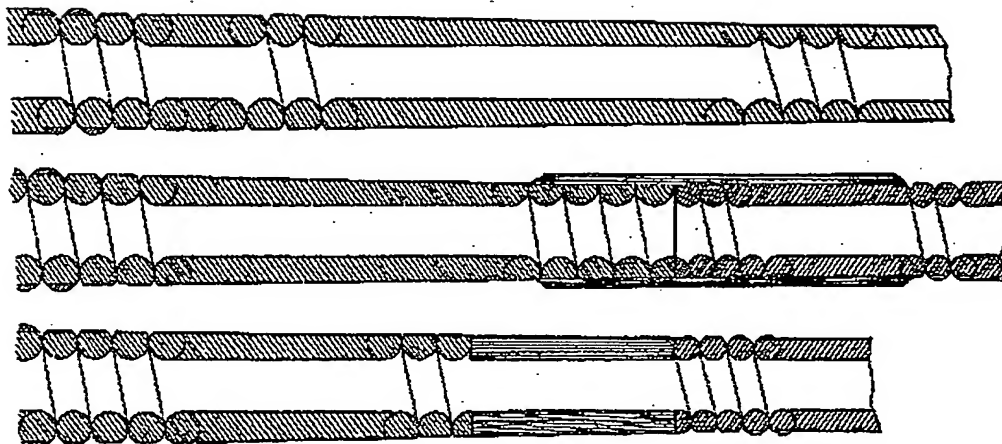
第一図は本発明実施例の一断面図であり、第二図は内部シース内に挿通したコントロール・ワイヤの断面図である。

特許出願代理人 弁理士 関 根 秀 太

特開昭62-176438(3)

図面の浄書(内容に変更なし)

第 1 図

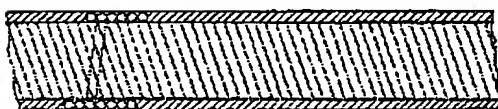


手 続 補 正 書 (方式)

 62.2.3
 昭和61年8月5日

特 許 庁 長 官 殿

第 2 図



1. 事件の表示 昭和61年特許第128278号

2. 発明の名称 生検用鉗子の改良

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ジェンマリー シントゲン (曲一名)

4. 代 理 人

住 所 107 東京都港区北青山 1丁目 2番 3号

青山ビル 410 電話 408-5281

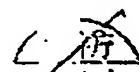
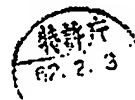
氏 名 (8262) 弁理士 関 根 寿 大

5. 補正命令の日付

起算日 昭和61年8月5日

発送日 昭和61年8月26日

6. 補正により増加する発明の数 0



特開昭62-176438 (4)

7. 修正の対称

- (1) 代理金を証する書面
- (2) 明細書における図面の簡単な説明
- (3) 真正な図面

8. 修正の内容

- (1) 別紙の通り
- (2) 明細書第8頁第5行目「第一図」を「第二図」と修正する
- (3) 別紙の通り

9. 添付書類

- (1) 委任状及び同原文 各1通
 - (2) 図 面 12枚(129頁) 1通
- 追加委任状の原本は特許庁に出す手続補正書(特開昭61-128277)に添付したものを採用します。